

2020年6月1日発行

一般社団法人 日本顎顔面補綴学会

Japanese Academy of Maxillofacial Prosthetics



Newsletter No. 31

Maxillofacial Prosthetics

発行人 米原啓之

編集 広報委員会

事務局 〒135-0033 東京都江東区深川2-4-11 一ツ橋印刷(株) 学会事務センター内

Tel : 03-5620-1953 Fax : 03-5620-1960

E-mail : max-service@onebridge.co.jp

第37回総会・学術大会中止について

新型コロナウイルスの感染は拡大の一途をたどっており2020年6月18日(木)～19日(金)開催予定でありました第37回日本顎顔面補綴学会総会・学術大会について理事長ならびに理事の先生方と協議を3月下旬に行い、全ての日程において中止とさせて頂きました。

本大会を中止するにあたり教育研修会を始め多くの役員の方々ならびに宮崎に来られることを楽しみにして準備をされておられた会員の皆様には多大なるご迷惑をおかけしましたことを心よりお詫び申し上げます。なお、本年度中止にあたり認定医ケースプレゼンテーションおよび教育研修会等の取り扱いについては理事会にて協議の上、学会よりご報告致します。

何卒、新型コロナウイルス感染拡大の状況をご理解頂き、ご了解頂きますようお願い申し上げます。

第37回日本顎顔面補綴学会総会・学術大会
大会長 山下善弘

COVID-19の蔓延に伴う 学会開催形式の変更情報

2020年5月10日現在の情報です。

詳細は、各学会HPで確認してください。

●第44回日本口蓋裂学会総会・学術集会

予定期間:2020年6月4日(木)～5日(金)
→紙面開催：日本口蓋裂学会雑誌 抄録号(第45巻2号)の発行による

●第44回日本頭頸部癌学会学術集会

予定期間:2020年6月5日(金)～6日(土)
→Web開催(7月17日(金)から27日(月)の10日程度)

●第21回日本言語聴覚学会

予定期間:2020年6月19日(金)～20日(土)
→紙面開催：言語聴覚研究への事後抄録の掲載をもって発表

●日本老年歯科医学会第31回学術大会

予定期間:2020年6月20日(土)～21日(日)
→延期(一般口演は誌上開催、ポスターはWeb公開)
新会期:2020年11月7日(土)～8日(日)
会場：東京医科歯科大学

●日本補綴歯科学会 第129回学術大会

予定期間:2020年6月26日(金)～28日(日)
→Web開催、抄録集への掲載、
大会HPへの抄録およびePoster掲載

●第26回日本摂食嚥下リハビリテーション学会
および第2回世界嚥下サミット
予定会期:2020年9月12日(土)~13日(日)
→延期

新会期:2021年8月20日(金)~24日(火)
の期間内

第27回学術大会との合同開催を調整中
会場:名古屋国際会議場

●日本口腔インプラント学会

第50回記念学術大会

予定会期:2020年9月18日(金)~20日(日)
→Web開催

対して構音、咀嚼及び嚥下機能の回復を目的に製作する装置をいう。なお、新製時に必要に応じて区分番号M030に掲げる有床義歯内面適合法に用いる義歯床用軟質裏装材を用いて口蓋補綴又は顎補綴(義歯を伴う場合を含む。)を製作して差し支えない。この場合は、新製した口蓋補綴又は顎補綴の装着時に、区分番号M030に掲げる有床義歯内面適合法の「2 軟質材料を用いる場合」を「注2」の規定により別に算定して差し支えない。また、口蓋補綴又は顎補綴の保険医療材料料とは別に区分番号M030に掲げる有床義歯内面適合法の特定保険医療材料料を算定する。

<コメント>

疑義解釈が出そろっておりませんので、今後修正される可能性もありますが、現時点では直接法の適用はなく、間接法での使用というしばりが残っていますのでお気をつけください。

注2:新製作した有床義歯を装着した日から6か月以内に当該有床義歯の有床義歯内面適合法を行った場合は、所定点数の100分の50を算定。

顎顔面補綴に係る 2020年度歯科診療報酬改定の要点

年度末の3月に、2020年度診療報酬改定が発表されました。COVID-19への対応のため、恒例の歯科医師会館での説明会は中止となり、オンラインで資料が配布されるという形式でした。そのため、通常は説明会に参加できない先生方も直接説明資料を見ることが可能、情報伝達はスムーズに進んだのではと推察されます。

今期も本学会から提出いたしました提案書が採用され、2018年度診療報酬改定で、顎堤の吸収が著しい下顎総義歯にのみ認められた軟質材料が、**口蓋補綴および顎補綴では上下顎問わず、いかなる残存歯状況でも使用可能**と認められました。また、本学会会員に關係深いものとして、広範囲顎骨支持型装置埋入手術の適応も拡大されました。

【有床義歯内面適合法】

2 軟質材料を用いる場合(1顎につき)1200点
[算定要件]

注1 2については、下顎総義歯又は区分番号M025に掲げる口蓋補綴、顎補綴に限る。

【口蓋補綴、顎補綴】

[算定要件]

(4) 「(1) のイ 腫瘍、顎骨囊胞等による顎骨切除に対する口蓋補綴装置又は顎補綴装置」とは、腫瘍、顎骨囊胞等による顎骨切除を行った患者に

【広範囲顎骨支持型装置埋入手術

(1 顎一連につき)

[算定要件]

(5) 当該手術は、次のいずれかに該当し、従来のブリッジや有床義歯(顎堤形成後の有床義歯を含む。)では咀嚼機能の回復が困難な患者に対して実施した場合に算定する。

イ~ハ(略)

(新) **二 6歯以上の先天性部分無歯症又は3歯以上の前歯永久歯萌出不全(埋伏歯開窓術を必要とするものに限る。)であり、連續した3分の1顎程度以上の多数歯欠損(歯科矯正後の状態を含む。)であること。**

<コメント>

連續した3分の1顎程度以上の多数歯欠損は変わりませんが、6歯以上の先天性部分無歯症又は先天性疾患に起因しない3歯以上の前歯永久歯萌出不全でも適用できるようになりましたので、こちらも併せてご活用ください。

(医療委員会委員長 隅田由香)

関連学会の紹介・

日本コミュニケーション障害学会

日本コミュニケーション障害学会
Japanese Association of Communication Disorders

日本コミュニケーション障害学会は、
2002年8月に日本聴能言語学会（日本アカデミー聴覚言語）から名称を変更して誕生した学会です
コミュニケーション障害に対して、様々な分野からアプローチして、研究を行なう専門的な学会です

昨年から関連学会として相互フォローを始めた言語聴覚士の学会の一つである、「日本コミュニケーション障害学会」についてご紹介いたします。

そのためには、まず私たち言語聴覚士の国家資格の成り立ちについて説明しなければなりません。言語聴覚士法が1997年にできて、20年を過ぎたところですが、この仕事をしている専門家は1960年代からいました。我が国における最初の言語聴覚士の養成教育は、1971年に国立聴力言語障害センター付属聴能言語専門職員養成所において大学卒業者を対象として1年課程で育成したことになります。その後、職能組織として日本聴能言語士協会が作られ、日本聴能言語学会が、学術団体として機能してきました。本学会はその後継団体として2002年に作られたものです。

本学会の目的は、「コミュニケーションおよびその障害の臨床・研究に関心をもつものが、相互の交流・研鑽により、それらに関する学問の発展に寄与すること」です。言語聴覚士の働く領域は、医療・教育・心理・福祉などの多岐にわたります。それらの専門家が人の生活の基盤をなす「コミュニケーション」の視点をもって、ICFの考え方に基づく「参加制約」を改善させ、家族や地域社会まで含めた概念をもって学術講演会、分科会や研修会、論文投稿などで情報交換を行い、議論を交わしています。

私たちの学術団体と歯科領域の先生たちとの交流が進むことを、言語聴覚士の一人として切に願っています。

（学際連携委員会 西脇恵子）

2019年度優秀論文賞受賞者の声

安田 裕康

日本大学歯学部
歯科補綴学第Ⅱ講座



下顎再建用プレートの力学的解析
—顎骨欠損部位の影響—
顎顔面補綴 42(2):71-77

この度は、2019年度日本顎顔面補綴学会優秀論文賞という名誉ある賞を戴き、大変光栄であります。丁寧に御指導していただいた査読の先生方、編集委員の先生方にお礼を申し上げます。

私は三次元有限要素法を用いてクラウンブリッジや、インプラント補綴などの力学的解析を中心に研究を行ってきました。その中で、残存歯数、腫瘍の範囲、顎骨欠損の大きさ、および再建方法の相違などにより、通常の補綴装置以上に様々な異なる要件が含まれる顎顔面補綴分野での三次元有限要素法による力学的解析を活用する事ができないかと考えてきました。研究開始当初は、複雑な解析モデルの製作や、下顎骨が離断している不安定な解析設定であるため、解析自体が困難な状態でした。しかし、近年におけるコンピュータ技術の進歩またソフトウェアの向上、さらに多くの先生のご指導があり、生体に近似した設定での解析を実現できるようになりました。ご助力をいただいた日本大学歯学部顎顔面補綴科大山哲生先生、中林晋也先生、加瀬武士先生には終始ご指導を頂きました事を心よりお礼申し上げます。

本研究を発展させていくことにより、再建用プレート、スクリュー、および補綴方法選択の一助となれるようにより臨床に近い想定での研究を続けていきたいです。

最後になりましたが、今後の学会のご発展を祈念させていただきます。今後とも御指導御鞭撻の程よろしくお願い致します。

関連学会報告

第33回 日本口腔リハビリテーション学会学術大会

2019年11月9日（土）、10日（日）に新潟ユニゾンプラザにて、第33回日本口腔リハビリテーション学会学術大会が、新潟大学大学院の井上 誠大会長のもと開催されました。メインテーマは「健康長寿に貢献する歯科医療と食支援」であり、300人超の参加者がありました。

学会初日の会長指定講演では厚生労働省老健局老人保健課の眞鍋馨先生から、日本の人口動態が急速に少子高齢化に進む中、医療や歯科医療がどのように進むべきかについての指針を得るべく、「介護保険制度の施行状況と口腔リハビリテーションへの期待」と題したご講演をいただきました。

特別講演では、新潟大学大学院医歯学総合研究科包括歯科補綴学分野の小野高裕教授が「咀嚼能率と咀嚼行動から“よく噛むこと”の意味を考える」と題して、咀嚼の重要性を考える最近の知見を紹介されました。また、教育講演では東京歯科大学解剖学講座の阿部伸一先生が「口腔リハビリテーションに必要な機能解剖の知識—高齢者にみられる形態と機能の変化—」という演題名で、動画などを駆使して分かりやすく生理・解剖を解説していました。



さらに、2日目には、「食べる機能の維持のための地域医療連携」、「医科歯科連携における歯科とSTとの連携」をテーマとした2つのシンポジウムが行われ、様々なテーマの講演を聞くことができました。一般発表では一般口演23題、ポスター8題の発表が行われました。顎顔面補綴そのものに関する発表はありませんでしたが、口腔腫瘍のリハビリテーションに関する発表もあり、興味深い2日間となりました。2020年度は岐阜県のじゅうろくプラザにて、朝日大学藤原周先生を大会長として11月7日（土）、8日（日）に開催される予定となっています。

（広報委員 堀 一浩）



第23回 日本顎顔面インプラント学会学術大会

第23回日本顎顔面インプラント学会学術大会が、2019年11月30日（土）から12月1日（日）の会期で、東京医科大学茨城医療センター教授の松尾朗大会長のもと、開催されました。

筆者は、初日のポスターセッション「再建・腫瘍」の座長を仰せつかり、骨再建方法を含めた広範囲顎骨支持型補綴装置のさまざまな問題点についてディスカッションさせていただきました。日本歯科大学の柳井先生や東京医科歯科大学の立川先生にもご参加いただけて、この30分間は、私にとってとても有意義な時間でした。「顎骨支持型」の酸いも甘いも知るエキスパートたちの共演は圧巻で、浅学非才の座長が諸先生方に根掘り葉掘り質問してしまう不思議な盛り上がりを見せたことは

言うまでもありません。あまりに楽しくて、写真撮ってもらうのを忘れました。この内容を、実は第37回顎顔面補綴学会学術大会のシンポジウムでご披露する予定でしたが、大会中止となってとても残念です。

再建された欠損部分のイメージが明確につかめないことから、顎義歯か、顎骨支持型補綴かの適用ラインの設定を計画的に行えないという点をもっと追求したいという意見が多く寄せられました。

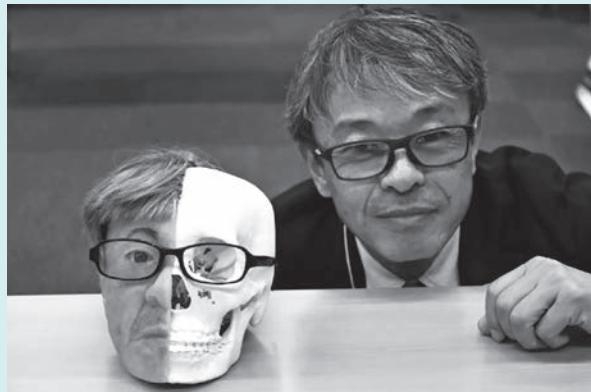
シンポジウム4では、本学会員の大山哲生先生が「広範囲顎骨支持型装置のリスクマネジメント」で登壇され、いつもながら大好評でした。あっという間の2日間でした。

(広報委員 関谷秀樹)

第21回 日本口腔顎顔面技工学会学術大会

2019年11月16日（土）第21回日本口腔顎顔面技工学会学術大会が「歯科技工士が目指すべき医療人」をテーマに長崎大学医学部 良順会館で開催されました。今回は研究会から学会へと名称変更された最初の大会となり、一般口演12題、宿題講演、特別講演2題で、特別講演の一つは市民講座として開放されました。

会場では一般市民にも顎顔面技工を理解してもらうため、口腔内装置や3Dプリンターによる臓器モデル、義眼、エピテーゼ、乳房プロテーゼな



どの技工物の他に、地元の義肢装具製作会社による義足等の展示があり、中でも本会会員の西川圭吾氏を模した復顔モデルは来場者の注目を集めていました。

また初の試みとしてビジュアルメイクコンテストが行われ、参加者はエピテーゼの製作技法などを応用した特殊メイクを自身の顔に施し、口裂け女やドラキュラなどに扮して会場を盛り上げていました。



翌17日（日）には2年振りにワークショップが開催され、事前に申し込みをした20名が人差し指の印象採得からシリコーンの重合、外部着色、完成までの一連のプロテーゼ製作方法を学びました。

次回の学術大会は2020年10月24日（土）に鳥取市で開催予定ですが、新型ウィルスのため延期を含め現在検討中の事です。

(広報委員 宮本哲郎)



ワークショップの様子



Newsletter No. 31

Maxillofacial Prosthetics

関連学会のご案内

5月10日現在、開催形式の変更が 発表されていない学会

●第65回日本口腔外科学会総会・学術大会

予定期間：2020年11月13日（金）～15日（日）

大会長：朝比奈 泉（長崎大学）

会場：名古屋国際会議場

問合せ：【運営事務局】株式会社コングレ九州支社

E-mail : jsoms2020@dongre.co.jp

<https://www.congre.co.jp/jsoms2020/>

●第34回日本口腔リハビリテーション学会

学術大会

予定期間：2020年11月7日（土）～8日（日）

大会長：藤原 周（朝日大学）

会場：じゅうろくプラザ（岐阜県岐阜市）

問合せ：第34回日本口腔リハビリテーション
学会学術大会準備委員会

担当：横矢（朝日大学歯学部口腔機能修復学講
座補綴第3講座内）

E-mail : jaor34@dent.asahi-u.ac.jp

『顎顔面補綴診療ガイドライン 2019』

Mindsへの掲載が決定

本学会診療ガイドライン作成委員会が長期に渡り改訂作業を行っていた『顎顔面補綴診療ガイドライン 2019』がこのたび、Mindsへ掲載される運びとなりました。国内では数多くの診療ガイドラインが作成されていますが、厚生労働省委託事業として日本医療機能評価機構が運営しているEBM普及推進事業（Minds）は、質の高い診療ガイドラインの普及活動とともに、それらの評価選定を行っています。

Minds掲載に至るハードルは高く、1次、2次、3次スクリーニングの後、Minds内の専門部会員による評価、外部有識者で構成された診療ガイドライン選定部会を経て掲載に値するガイドラインが選定されます。選定されることは大変名誉なことであり、小野高裕先生以下、診療ガイドライン作成委員会のご尽力の賜物です。本ガイドラインの一部のクリニックエクスチョンは、学会誌にも掲載されていますので、是非ご一読ください。

（広報委員 中島純子）

皆様のご意見をお寄せください。

一般社団法人日本顎顔面補綴学会 広報委員会

委員長 中島純子

委員 猪原 健、大木明子、関谷秀樹、

堀 一浩、宮本哲郎、吉岡 文

E-mail : max-service@onebridge.co.jp